

『日本思想史事典』正誤表  
2023年9月12日更新

- 22 頁、●中世の 5～6 行目：「当時に」→「当時の」  
同上、6 行目：「理化化と諸側面があるが」→「理化化といった諸側面があるが」  
同上、11 行目以降：「歴史の道理の見抜く智恵は、・・・あるべきあり方に復帰することが可能となる」→「歴史の道理を見抜く智恵は、・・・あるべきあり方に復帰することを可能にする」
- 40 頁、下から 10～11 行目：「活躍したことがいた」→「活躍したことが知られている」
- 42 頁、最終行：「地縁的な結びつき強く」→「地縁的な結びつきが強く」
- 44 頁、●キリスト教伝来・・・の第 3 段落、2 行目：「14 世紀末～15 世紀はじめ」→「16世紀末～17世紀はじめ」
- 56 頁、本文 5 行目：「相手の住居に通う」→「男性が相手の住居に通う」
- 83 頁、最後から 2 番目の段落の 4 行目：「支配」→「配当」
- 106 頁、第 3 段落、1 行目：「至高至平」→「至公至平」
- 135 頁、下から 12 行目：「見い出す」→「見出す」
- 192 頁、●伊勢神宮と齋宮の 5 行目：「『延喜齋宮式』にあれ」→「『延喜齋宮式』にあり」
- 422 頁、●南総体験と江戸への帰還の 3 行目：「18 歳」→「14 歳」
- 423 頁、下から 2 行目：「統治機構に力に」→「統治機構の力に」
- 486 頁、本文 5 行目：「平田篤胤」→「平田篤穩」
- 507 頁、下から 10 行目「本書第Ⅲ部第 3 章」→「本書第Ⅳ部第 3 章」
- 539 頁、10 行目：「軽視の嘆き」→「軽視を嘆き」
- 608 頁、最終行：「E.カント」→「I.カント」

『日本思想史事典』正誤表  
2023年9月12日更新

624 頁、本文 9 行目：「誘導する側面であるこうした」→「誘導する側面であるるこうした」

652 頁、下から 5 行目：「E.カント」→「I.カント」

675 頁、最終行：「経歴が帰結を」→「経歴が同じ帰結を」

708 頁、人名索引の「お」の項の「黄檗清規 436」を事項索引に移す

.....

【これ以降、第 2 刷以降の正誤表】

394 頁、タイトル横の参照項目：「▶1 林羅山・鶯峯 p.398」→「▶1 林羅山・鶯峰 p.398」

428 頁、「<sup>かだのあずまろ</sup>荷田春満 (1706～51)」→「<sup>かだのあずまろ</sup>荷田春満 (1669～1736)」  
「<sup>かだのありまろ</sup>荷田在満 (1706～71)」→「<sup>かだのありまろ</sup>荷田在満 (1706～51)」

507 頁、下から 5～4 行目：「天保期 (1830～1940 年代前半)」→「天保期 (1830～1840 年代前半)」